

令和7年度 第3回 都田中学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和8年2月17日（火） 14時00分から15時40分まで
- 2 開催場所 都田中学校 多目的室
- 3 出席委員 太田 和宏、太田 宜克、下原 直美、下村 優子、神間 郁子、吉田 恵子、高須 里美、小出 慎一郎、野末 将秀
- 4 オブザーバー 谷野 弘勝（都田協働センター所長）
- 5 学 校 生熊 和広（校長）、服部 将剛（教頭）、尾田 由利恵（教務）、桑原 恵実（CSディレクター）
- 6 傍 聴 者 なし
- 7 会議録作成者 CSディレクター 桑原 恵実
- 8 議長の選出

司会から、議長の選出について委員に意見を求めたところ、高須委員が本日の議長を務めることを申し出、全員異議なくこれを承認した。

9 協議事項

- (1) 学校関係者評価（教務主任）
- (2) 来年度の学校運営の基本方針（校長）
- (3) 学校運営協議会の自己評価
- (4) 夢育やらまいか事業（教頭）

10 会議記録

司会の高須委員から、委員総数9人のうち9人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

(1) 学校関係者評価（教務主任）

議長の指示により、教務主任から、別紙資料に基づき学校関係者評価について説明があった。

(2) 来年度の学校運営の基本方針（校長）

議長の指示により、校長から、別紙資料に基づき来年度の学校運営の基本方針について説明があり、委員から以下の発言があった。

- ・AIでの採点は効率の面ではすばらしいが、今まで先生が手書きの行間から子ども達の考えを汲み取っていたと思うがそういうところはどうなのか。（和宏委員）
- ・AIでは記号や単語の採点はできるが、長文の読み取りはできないので今まで通り教員が採点をしている。（学校）
- ・教員の働き方改革で、採点ソフトで時短になったり、部活動の指導が減ったり、コロナで行事が減ったりすることで、先生たちが子ども達を把握する方法が減るのではないかと危惧している。（神間委員）
- ・部活動の地域展開後も、平日は教員が部活動の指導をする。子ども達の関わりの面では、朝の登校時から生徒を待っている教員がいる、休み時間も職員室に戻らずに教室で過ごす教員がいる、

授業時間以外でも子ども達を見ている。学校活動の中で出来る限りやっていく。(学校)

(3) 学校運営協議会の自己評価

- ・地域と一体になって協議しているということを知り、すばらしいことだと思った。地域と繋がりができて、どこに課題があるか初めて見えてくる。少しずつ前に進んでいければ。(和宏委員)
- ・学校が地域に何を求めているか具体的に知りたい。そうすることで地域が応援、援助することができると思う。学校側がもっと発信してくれると焦点をしぼって活動できるのでは。(宜克委員)
- ・地域で子ども達が活躍する場を作るのが、地域と共に子ども達を育てるということだと思っているが、中学生が地域で活躍する機会がまだまだ少ない。その場を積極的に提供していけたらいい。協議会では安全対策について話されているが、それが地域においていない。自治会長を通して見守りをお願いしてもいいと思う。活発に意見が出ていい会だったと思う。(神間委員)
- ・書道の指導を通して、生徒の良い面、素直で何事にも真面目に取り組み、優しい、その通りだと感じていた。先生たちは授業で声掛けをしていて、それによって温かさが生まれ、会話が生まれ、とてもいいことだと思っていた。(吉田委員)
- ・委員をすることで中学校を身近に思えるようになった。委員の話が来た時には、地域の人が喜んで引き受けてもらえるようにアピールしたい。(下原委員)
- ・挨拶など生徒を巻き込んだ方がより相互理解ができると思う。一年生の頃から、地域の人を呼んでキャリア教育をやってほしい。(小出委員)
- ・アットホームで声を出しやすい会だった。部活にも地域クラブにも所属していない子ども達がどうなっていくのか、地域の人の目で気づくことができるのかなと感じている。そういうところに目を配ることも必要だと思う。(野末委員)
- ・部活動の地域移行を踏まえて、地域への情報発信ができるといいと思った。熟議のテーマを早めに教えてもらえれば、自治会や家庭で話し合ったり、考えをまとめたりすることができる。自転車講座や見守りなど、定着するには時間がかかると感じる。時間をかけてでも継続できるものはより良い方向に繋げていけるように頑張っていきたい。(下村委員)
- ・部活動の地域クラブ化を地域の方の目に触れる機会を作れたらいいと思う。(高須委員)
- ・協議会に参加することで先生方と身近に話すことができるようになり、協力してもらえることが多くなった。二十歳の集いに音楽部が参加したことからは始まり、ボランティアとしてグラウンドゴルフ大会、協働センター祭りへの参加、バルーンアートの披露などを通して、地域の人と交流する場を作ることができた。人が集まる、人に知ってもらうには時間がかかると思っている。(谷野オブザーバー)

(4) 夢育やらまいか事業(教頭)

夢育やらまいかに対して6万円の加算があり、地域と繋がる体験活動及び、教科の学習の充実を図るための外部人材の活用として、講師をお招きすることに使用した。

その他連絡事項

学校から、次回会議は令和8年5月20日(水)14時30分から、被服室で開催する旨の報告があった。